

THIS PAGE BLANK (USPTO)

DIALOG(R) File 345:Inpadoc/Inm. & Legal Stat
(c) 2000 EPO. All rts. reserv.

10819863

Basic Patent (No,Kind,Date): JP 4296579 A2 921020 <No. of Patents: 002>

Patent Family:

Patent No	Kind	Date	Applic No	Kind	Date
JP 4296579	A2	921020	JP 9186279	A	910326 (BASIC)
JP 2846136	B2	990113	JP 9186279	A	910326

Priority Data (No,Kind,Date):

JP 9186279 A 910326

PATENT FAMILY:

JAPAN (JP)

Patent (No,Kind,Date): JP 4296579 A2 921020

DRIVING OF LIGHT-EMITTING ELEMENT ARRAY (English)

Patent Assignee: NIPPON SHEET GLASS CO LTD

Author (Inventor): KUSUDA YUKIHISA

Priority (No,Kind,Date): JP 9186279 A 910326

Applic (No,Kind,Date): JP 9186279 A 910326

IPC: * B41J-002/44; B41J-002/45; B41J-002/455; B41J-002/30;
G03G-015/04

JAPIO Reference No: ; 170106M000140

Language of Document: Japanese

Patent (No,Kind,Date): JP 2846136 B2 990113

Patent Assignee: NIPPON SHEET GLASS CO LTD

Author (Inventor): KUSUDA YUKIHISA

Priority (No,Kind,Date): JP 9186279 A 910326

Applic (No,Kind,Date): JP 9186279 A 910326

IPC: * B41J-002/44; B41J-002/30; B41J-002/45; B41J-002/455

Language of Document: Japanese

THIS PAGE BLANK (USPTO)

?s pn=jp 4296579
S5

0 PN=JP 4296579

THIS PAGE BLANK (USPTO)

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平4-296579

(43) 公開日 平成4年(1992)10月20日

(51) Int. Cl. ⁸	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 4 1 J	2/44			
	2/45			
	2/455			
		9110-2C	B 4 1 J 3/21	L
		7318-2C	3/10	1 1 4 E
審査請求 未請求 請求項の数 6 (全 8 頁) 最終頁に続く				

(21) 出願番号 特願平3-86279

(22) 出願日 平成3年(1991)3月26日

(71) 出願人 000004008

日本板硝子株式会社

大阪府大阪市中央区道修町3丁目5番11号

(72) 発明者 楠田 幸久

大阪府大阪市中央区道修町3丁目5番11号

日本板硝子株式会社内

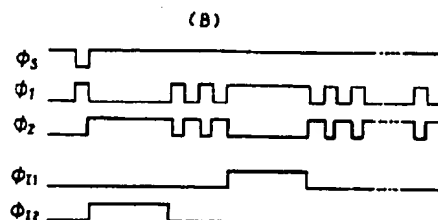
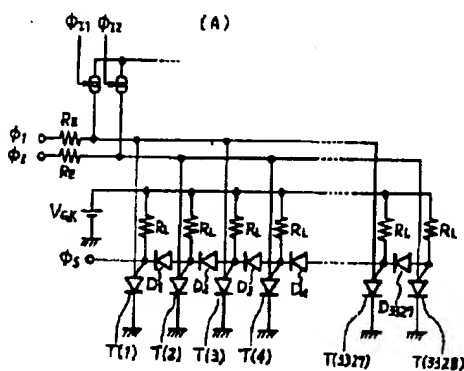
(74) 代理人 弁理士 土屋 勝

(54) 【発明の名称】 発光素子アレイの駆動方法

(57) 【要約】

【構成】 第1群のクロックパルス ϕ_1 、 ϕ_2 は互いにハイレベル時間をわずかな時間だけ重ね合わせながら交互にハイレベルとなり、そのハイレベル時間は、発光強度を増大させる発光素子を発光状態とするときの方が発光強度を増大させない発光素子を発光状態とするときよりも十分長く、第2群のクロックパルス ϕ_{11} 、 ϕ_{12} は、対応する第1群のクロックパルス ϕ_1 、 ϕ_2 がハイレベルでありかつそのとき発光している発光素子の発光強度を増大させるときのみハイレベルとなる。

【効果】 発光強度を増大させる発光素子のみの発光時間が長くなり、その結果、この発光素子に一定のエネルギーを放射させるには、この発光素子の発光強度は弱くてよいから、第2群のクロックパルスのハイレベルでの電流量は小さくて済み、発光素子を長寿命化させることになる。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】しきい電圧もしくはしきい電流を制御するためのゲート電極と、外部電圧もしくは外部電流が印加されるアノード電極とを有する発光素子を一次元的、二次元的もしくは三次元的に多数個配列し、上記各発光素子のゲート電極をこの発光素子の近傍に位置する少なくとも1つの上記発光素子のゲート電極と電気的手段を介して接続してネットワーク配線を形成し、上記発光素子の発光状態を他の発光素子に転送するための信号である第1群のクロックパルスをそれぞれ個別に印加する複数のクロックラインを、上記各発光素子のアノード電極に一本ずつ接続し、上記発光素子の発光強度を増大させるための信号である第2群のクロックパルスを供給する電流源を、上記各クロックラインに接続した発光素子アレイの駆動方法において、上記第1群のクロックパルスは、互いにハイレベル時間をわずかな時間だけ重なり合わせながらハイレベルを他の第1群のクロックパルスに移し、上記発光強度を増大させるべき発光素子を発光状態とするときの第1群のクロックパルスのハイレベル時間は、発光強度を増大させるべきどの発光素子を発光させるときでもすべて略同じ長さであり、上記発光強度を増大させない発光素子を発光状態とするときの第1群のクロックパルスのハイレベル時間は、発光強度を増大させないどの発光素子を発光させるときでもすべて略同じ長さであり、上記発光強度を増大させるべき発光素子を発光状態とするときの第1群のクロックパルスのハイレベル時間は、上記発光強度を増大させない発光素子を発光状態とするときの第1群のクロックパルスのハイレベル時間よりも十分長く、上記第2群のクロックパルスは、対応する第1群のクロックパルスがハイレベルであり、かつ、そのとき発光している発光素子の発光強度を増大させるときのみハイレベルとなることを特徴とする発光素子アレイの駆動方法。

【請求項2】しきい電圧もしくはしきい電流を制御するためのゲート電極と、外部電圧もしくは外部電流が印加されるアノード電極とを有するスイッチ素子及び発光素子それぞれ1つずつからなる組を一次元的、二次元的もしくは三次元的に多数個に配列し、上記各スイッチ素子のゲート電極を、このスイッチ素子の近傍に位置する少なくとも1つのスイッチ素子のゲート電極、及び上記各スイッチ素子と組をなす発光素子のゲート電極と電気的手段を介して接続してネットワーク配線を形成し、

上記スイッチ素子のオン状態及び上記発光素子の発光状態を他のスイッチ素子及び発光素子の組にそれぞれ転送するための信号である第1群のクロックパルスをそれぞれ個別に印加する複数のクロックラインを、上記各スイッチ素子のアノード電極に一本ずつ接続し、上記発光素子の発光強度を増大させるための信号である第2群のクロックパルスを供給する電流源を、上記各発光素子のアノード電極に接続した発光素子アレイの駆動方法にお

2

いて、上記第1群のクロックパルスは、互いにハイレベル時間をわずかな時間だけ重なり合わせながらハイレベルを他の第1群のクロックパルスに移し、上記発光強度を増大させるべき発光素子を発光状態とするときの第1群のクロックパルスのハイレベル時間は、発光強度を増大させるべきどの発光素子を発光させるときでもすべて略同じ長さであり、上記発光強度を増大させない発光素子を発光状態とするときの第1群のクロックパルスのハイレベル時間は、発光強度を増大させないどの発光素子を発光させるときでもすべて略同じ長さであり、上記発光強度を増大させるべき発光素子を発光状態とするときの第1群のクロックパルスのハイレベル時間は、上記発光強度を増大させない発光素子を発光状態とするときの第1群のクロックパルスのハイレベル時間よりも十分長く、上記第2群のクロックパルスは、対応する発光素子が発光状態であり、かつ、その発光している発光素子の発光強度を増大させるときのみハイレベルとなることを特徴とする発光素子アレイの駆動方法。

【請求項3】発光強度を増大させるべき上記発光素子を発光状態とするときの第1群のクロックパルスのハイレベル時間が、発光強度を増大させる上記発光素子の数によって決められる最大時間、又はそれ以下であってそれに十分近い時間である請求項1又は2記載の発光素子アレイの駆動方法。

【請求項4】発光強度を増大させたときの上記発光素子の発光強度と、この発光強度を増大させた時間との積が、光プリンタの感光ドラムを感光させるための最小値、又はそれ以上であってそれに十分近い値となるように上記発光強度が決められる請求項1、2又は3記載の発光素子アレイの駆動方法。

【請求項5】上記第2群のクロックパルスを構成するクロックパルスの数が1つであり、このクロックパルスを供給する電流源がすべてのクロックラインに共通に接続されている請求項1、3又は4記載の発光素子アレイの駆動方法。

【請求項6】上記第2群のクロックパルスを構成するクロックパルスの数が1つであり、このクロックパルスを供給する電流源がすべての発光素子に共通に接続されている請求項2、3又は4記載の発光素子アレイの駆動方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、多数個の発光素子を同一基板上に集積することにより形成された発光素子アレイの駆動方法に関し、特にこの発光素子アレイの長寿命化に関する。

【0002】

【従来の技術】多数個の発光素子を同一基板上に集積した発光素子アレイはその駆動用ICと組み合わせて光プリンタ等の書き込み用光源として利用されている。本発

3

明者らは発光素子アレイの構成要素としてPNPN構造を持つ発光サイリスタに注目し、発光点の自己走査が実現できることを既に特許出願（特開平1-238962号、特開平2-14584号、特開平2-92650号、特開平2-92651号）し、光プリンタ用光源として実装し簡便となること、発光素子ピッチを細かくできること、コンパクトな発光装置を作製できること等を示した。

【0003】本発明者らが行ったこれらの発明の一例として、特開平2-14584号に示すダイオードによる電位結合を用いた、2相クロック駆動により自己走査が可能な発光素子アレイを図4に示す。 ϕ_1 、 ϕ_2 は共に、ハイレベル時間とローレベル時間との比（デューティ比）がほぼ1:1である転送用クロックパルスであり、 V_{cc} は電源（通常5V）である。T(1)~T(5)は発光素子として用いられる発光サイリスタ、 D_1 ~ D_5 は電位結合用ダイオード、 G_1 ~ G_5 は発光サイリスタT(1)~T(5)のゲート電極である。R_iはゲート電極の負荷抵抗であり、ゲート電極への電流を制限する。

【0004】動作を簡単に説明する。まず転送用クロックパルス ϕ_2 の電圧がハイレベルで発光サイリスタT(2)がオン状態（発光状態）であるとする。このとき、ゲート電極 G_2 の電位は V_{cc} の5Vからほぼ等Vにまで低下する。この電位降下の影響はダイオード D_2 によってゲート電極 G_1 に伝えられ、その電位を約1Vに設定する。しかし、ダイオード D_1 は逆バイアス状態であるためゲート電極 G_1 への電位の接続は行われず、ゲート電極 G_1 の電位は5Vのままとなる。発光サイリスタのオン電位はゲート電極電位+拡散電位（約1V）で近似されるから、次の転送用クロックパルス ϕ_1 のハイレベル電圧は約2V（発光サイリスタT(3)をオンさせるために必要な電圧）以上でありかつ約4V（発光サイリスタT(5)をオンさせるために必要な電圧）以下に設定しておけば発光サイリスタT(3)のみがオンし、これ以外の発光サイリスタはオフのままにすることができる。従って2本の転送用クロックパルスで発光状態が転送されることになる。

【0005】図5は、図4の発光素子アレイを同一半導体基板上に形成した場合の例を示す。N型GaAs基板上にGaAsのPNPN構造を形成し、ホトエッチング等の手法により図5の構造を形成する。

【0006】光プリンタの感光ドラムに画像を書き込む（感光させる）ためには、ある最低エネルギー以上のエネルギーを感光ドラムに与えることが必要である。感光ドラムに与えられるエネルギーは、画像を書き込みたい位置に相当する発光素子の発光時間とこの素子の発光強度との積で与えられる。よって、図4の発光素子アレイを光プリンタ用光源として使用するためには、発光点の転送のみならず、発光強度の変調が必要となるが、この

4

方法は特開平1-238962号により示されている。

【0007】図6に、特開平1-238962号による、発光素子の発光強度変調を行うための発光素子アレイの駆動方法を簡略化した駆動方法が示されている。図6の回路は、発光強度変調用クロックパルス（電流パルス） ϕ_{i1} 及び ϕ_{i2} を提供するクロックラインが、転送用クロックパルス ϕ_1 及び ϕ_2 を提供するクロックラインにそれぞれ接続されている以外は図4と同一である。転送用クロックパルス ϕ_1 及び ϕ_2 は共にハイレベル時間とローレベル時間との比（デューティ比）がほぼ1:1でありかつ互いに略反転パルスである。発光強度変調用クロックパルス ϕ_{i1} 及び ϕ_{i2} は、画像を書き込みたい位置に相当する発光素子が発光状態にあるときのみハイレベルとなる（その電流値は、このときの発光時間と発光強度との積が、感光ドラムに画像を書き込むための最低エネルギー以上となるように設定される）。その結果、対応するクロックラインに電流が印加され、画像を書き込みたい位置に相当する発光素子の発光強度は増大し、感光ドラムに前記最低エネルギーを与えることができる。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】しかし、上述の方法により、画像を書き込みたい位置に相当する発光素子の発光強度を増大させると、その発光素子に流れる電流量も増加する。発光素子の寿命は、その素子に流れる電流量の増加に伴って加速度的に短くなることが知られており、特に大電流が流れた場合、発光素子の寿命は著しく低下する。従って、特開平1-238962号の方法で発光強度の変調を行うと、発光素子の寿命を短くしてしまうことになる。

【0009】本発明の目的は、発光素子の寿命を短くすることなく、発光素子の発光強度変調を行うことのできる発光素子アレイの駆動方法を提供することである。

【0010】

【課題を解決するための手段】上記目的を解決するために、本発明の発光素子アレイの駆動方法は、発光強度を増大させるべき発光素子の発光時間を、他の発光素子の発光時間よりも長くする構成とした。すなわち、本発明の、しきい電圧もしくはしきい電流を制御するためのゲート電極と、外部電圧もしくは外部電流が印加されるアノード電極とを有する発光素子を一次的、二次的もしくは三次的に多数個配列し、上記各発光素子のゲート電極をこの発光素子の近傍に位置する少なくとも1つの上記発光素子のゲート電極と電気的手段を介して接続してネットワーク配線を形成し、上記発光素子の発光状態を他の発光素子に転送するための信号である第1群のクロックパルスをそれぞれ個別に印加する複数本のクロックラインを、上記各発光素子のアノード電極に一本ずつ接続し、上記発光素子の発光強度を増大させるための信号である第2群のクロックパルスを供給する電流源

を、上記各クロックラインに接続した発光素子アレイの駆動方法は、

【0011】上記第1群のクロックパルスが、互いにハイレベル時間をわずかな時間だけ重なり合わせながらハイレベルを他の第1群のクロックパルスに移し、上記発光強度を増大させるべき発光素子を発光状態とするときの第1群のクロックパルスのハイレベル時間が、発光強度を増大させるべきどの発光素子を発光させるときでもすべて略同じ長さであり、上記発光強度を増大させない発光素子を発光状態とするときの第1群のクロックパルスのハイレベル時間は、発光強度を増大させないどの発光素子を発光させるときでもすべて略同じ長さであり、上記発光強度を増大させる発光素子を発光状態とするときの第1群のクロックパルスのハイレベル時間は、上記発光強度を増大させない発光素子を発光状態とするときの第1群クロックパルスのハイレベル時間よりも十分長く、上記第2群のクロックパルスは、対応する第1群のクロックパルスがハイレベルであり、かつ、そのとき発光している発光素子の発光強度を増大させるときのみハイレベルとなることを特徴とする。

【0012】つまり、従来の転送用クロックパルスは、発光強度を増大させる発光素子及び発光強度を増大させない発光素子が共に同じ時間だけ発光する（ハイレベル時間どうし、ローレベル時間どうしをすべて同じ長さとする）ようにしていたが、本発明においては、発光強度を増大させる発光素子の発光時間が発光強度を増大させない発光素子の発光時間よりも長くなるように転送用クロックパルスを制御する。それと同時に、発光強度変調用クロックパルスは、対応する転送用クロックパルスがハイレベルであり、かつ、そのとき発光している発光素子の発光強度を増大させるときのみハイレベルとなる。

【0013】本発明における、転送用クロックパルスをそれぞれ個別に印加するクロックラインの本数は、発光状態の転送動作に必要な最小限の本数で十分であるが、発光状態の転送動作に必要な最小限の本数以上の本数であってもよい。また、発光強度を増大させる時間とそのときの発光強度との積は、感光ドラムに画像を書き込むための最低エネルギー以上となるように設定される。さらに、本発明は、スイッチ素子と発光素子を共に配列することにより形成された発光素子アレイにも適用することが可能である。また、上記第2のクロックパルスを供給する電流源はクロックラインの本数と同数あり、それぞれが1対1に接続されていてもよいし、電流源が1つだけあり、それがすべてのクロックラインに共通に接続されていてもよい。

【0014】

【作用】本発明により、発光強度を増大させる発光素子の発光時間が従来に比べて大巾に長くなるから、上述の最低エネルギーを感光ドラムに与える場合、発光強度を増大させたときの発光素子の発光強度を従来よりも大巾

に弱くすることができる。すなわち、発光強度変調用クロックパルス（電流パルス）のハイレベル時での電流を小さくすることができるから、発光強度を増大させる発光素子に流れる電流量を少なくでき、それにより発光素子の寿命を長寿命化することができる。

【0015】

【実施例】以下、本発明の実施例について、図1、図2及び図3を参照しながら説明する。

【0016】図1は、本発明の第1の実施例を示す図であって、(A)の部分は上述の発光素子アレイを光プリンタ用光頭として用いた場合を表している。光プリンタの解像度を400DPI（ドット・パー・インチ）としているので、A4版の短辺の1ライン（約21cm）に約3300個の発光素子が一次元的に配列されている。この場合、128個の発光素子を一次元的に配列した発光素子アレイを直列に26個接続し、3328個の発光素子からなる一次元発光素子アレイを形成しており、図6(A)と回路構成は同じである。

【0017】(B)の部分は、(A)の回路を自己走査させるための、本発明による発光素子アレイの駆動方法を表す図である。

【0018】図1(B)に示した転送用クロックパルス ϕ_1 、 ϕ_2 及び発光強度変調用クロックパルス ϕ_{11} 、 ϕ_{12} を得るためのブロックダイアグラムを図2に示す。まず画像情報は、1ラインメモリに保存される(1)。この画像情報は1ラインメモリから発光強度変調素子数カウンタへ行き(2)、1ラインあたりの発光強度を増大させる発光素子数を計算する。

【0019】この計算結果と、1ラインに割り当てられる時間と、発光強度を増大させない発光素子を発光状態とするときの転送用クロックパルスのハイレベル時間（本実施例では、発光素子アレイを動作させるための最小時間である0.1 μ 秒（オンス（S.Ohns）他、Extended Abstract of the 22nd Conference on Solid State Device and Materials, Sendai 1990, pp801-804）に固定されている）とから、発光強度を増大させる発光素子を発光状態とするときの転送用クロックパルスのハイレベル時間（1発光素子が画像を感光ドラムに書き込む時間）が、発光強度変調素子数カウンタにおいて計算される。

【0020】本実施例では、1ラインに割り当てられる時間を1.28m秒とし、この1ラインについて発光強度を増大させる発光素子数を166個（通常の黒化率（5%）に相当）とする。すると、発光強度を増大させる発光素子を発光状態にするときの転送用クロックパルス ϕ_1 、 ϕ_2 のハイレベル時間は、 $(1.28\text{ms} - 0.1\mu\text{s} \times 3300) \div 166 = 5.7\mu\text{s}$ となる。これは、従来の転送用クロックパルスのハイレベル時間（ $1.28\text{ms} \div 3300 = 0.39\mu\text{s}$ ）よりも約15倍も長い時間である。

【0021】発光強度変調素子数カウンタでの上述の計算結果(4)と、1ラインメモリからの画像情報(3)とが転送用クロックパルス発生器へ送られる。転送用クロックパルス発生器は、発光強度を増大させる発光素子を発光状態とするときのハイレベル時間を、5.7 μ sとし、発光強度を増大させない発光素子を発光状態とするときのハイレベル時間を0.1 μ sとした転送用クロックパルス ϕ_1 、 ϕ_2 を発生する(図1には発光素子T(2)、T(7)の発光強度を増大する転送用クロックパルス ϕ_1 、 ϕ_2 が示されている)。この転送用クロックパルス ϕ_1 、 ϕ_2 は、発光強度ばらつき補正用メモリと(5)、発光強度変調用クロックパルス発生器と(6)、発光素子アレイへ(7)送られる。

【0022】発光強度ばらつき補正用メモリは、1つ1つの発光素子の発光強度のばらつきを記憶しており、発光強度変調用クロックパルスのハイレベル電流値の微調整のために用いられる。

【0023】発光強度変調素子数カウンタからの信号(8)、発光強度ばらつき補正用メモリからの信号(9)及び転送用クロックパルス発生器からの信号(6)を取り入れることにより、発光強度変調用クロックパルス発生器は発光強度変調用クロックパルス ϕ_{11} 、 ϕ_{12} を発生する。図1では発光素子T(2)、T(7)が発光しているときのみ、それぞれ ϕ_{12} 及び ϕ_{11} がハイレベルとなる発光強度変調用クロックパルスが示されている。この発光強度変調用クロックパルス ϕ_{11} 、 ϕ_{12} は発光素子アレイに送られる(10)。以上のような手段により、図1(B)に示した転送用クロックパルス及び発光強度変調用クロックパルスが得られる。

【0024】次に、図1(B)のパルスによる図1(A)の動作を説明する。まず、スタートパルス ϕ_s をローレベル(約0V)にすると同時に転送用クロックパルス ϕ_1 をハイレベル(約2~約4V)とし、発光素子T(1)を発光させる。その後すぐ、スタートパルス ϕ_s はハイレベルに戻される。

【0025】次に、発光素子T(1)の発光状態を発光素子T(2)へ転送するために、発光素子T(1)が発光したままの状態転送用クロックパルス ϕ_2 をハイレベル(約2~約4V)とする。すると発光素子T(2)が発光する。その後すぐ転送用クロックパルス ϕ_1 をローレベルとするので発光素子T(1)はオフ状態となる(このとき転送用クロックパルス ϕ_1 は0.1 μ s間ハイレベルであった)。発光素子T(2)が発光した後であってそれとほぼ同じ時刻に発光強度変調用クロックパルス ϕ_{12} をハイレベルとする。すると、発光素子T(2)へ流れる電流が増え、発光素子T(2)は発光強度を増す。

【0026】次に、発光素子T(2)の発光状態を発光素子T(3)へ転送するために、発光素子T(2)が発光したままの状態転送用クロックパルス ϕ_1 をハイレ

ベル(約2~約4V)とする。すると発光素子T(3)が発光する。その後すぐ転送用クロックパルス ϕ_2 はローレベルとなり発光素子T(2)はオフ状態となる(このとき転送用クロックパルス ϕ_2 は5.7 μ s間ハイレベルであった)。発光素子T(3)、T(4)、T(5)及びT(6)はそれぞれ0.1 μ sずつ発光し次に発光する発光素子に発光状態を転送する。発光素子T(7)は5.7 μ s間発光し、その間発光強度変調用クロックパルス ϕ_{11} はハイレベルにされる。以下発光素子T(3328)まで発光状態が転送されるが、その間に発光素子T(2)及びT(7)を含めて166個の発光素子の発光強度が発光強度変調用クロックパルス ϕ_{11} 、 ϕ_{12} により増大させられる。

【0027】以上の過程において、発光強度を増大させた発光素子の発光強度と、その発光強度が増大させられた時間との積が、光プリンタの感光ドラムを感光させるための最小値となるように上記発光強度は調節されている。これら166個の発光素子は画像を書き込むのであるが、そこを流れる電流値は従来の約15分の1に抑えられる。よって、これら発光素子の寿命は長寿命化され、ひいては発光素子アレイ全体は長寿命化される。

【0028】上述の実施例では166個の発光素子の発光強度を増大させる場合を示した。しかし、発光強度を増大させる素子数が、例えばこれの倍(332個)となった場合、対応する転送用クロックパルスのハイレベル時間は半分になるので、発光強度を倍にしなければならない。つまり、1ラインあたりの発光強度を増大させる発光素子の数によって、常にその発光強度と発光時間が、上述の最低エネルギー以上となるように制御されなければならない。

【0029】また、上述の実施例では、1ライン中での発光状態にある発光素子の数を1つとして説明したが、本発明は必ずしもこれに限定されない。例えば、128個の発光素子を一次元的に配列した発光素子アレイを直列に26個接続した3328個の発光素子からなる一次元発光素子アレイにおいて、この128個の発光素子からなる発光素子アレイそれぞれが1つずつ発光状態の発光素子を有するようにし、それら26個の発光状態が転送されるようにしてもよい。この場合、128素子に1.28m秒が割り当てられることになるので、上述の実施例と同じように黒化率を5%として計算すると、従来の方法の18分の1の電流量で画像書き込みを行うことができる。

【0030】図3は、本発明の第2の実施例を示す図であって、この場合も図1と同じく発光素子アレイを光プリンタ用光源として用いた場合を表している。(A)の部分の上半分の回路は、図6で発光素子T(1)~T(4)をスイッチ素子S(1)~S(3328)と置き換えさらに数を増やしたものである。各スイッチ素子のゲート電極は、それぞれそのスイッチ素子と組をなす1

個の発光素子のゲート電極に接続されている。その結果各発光素子は、対応するスイッチ素子がオン状態であれば発光状態となる。さらに、この発光素子のアノード電極には、共通の発光強度変調用クロックパルス ϕ_1 を供給する電流源が接続されている。

【0031】転送用クロックパルス ϕ_1 、 ϕ_2 は図1(B)と全く同じ手順により発生させられたパルスであって、その波形も図1(B)と同じである。この場合、発光素子T(2)及びT(7)のみが発光強度を増大させられる。発光強度変調用クロックパルス ϕ_1 は発光素子T(2)及びT(7)のどちらかが発光しているときのみハイレベルとなる。

【0032】動作は図1に示した第1の実施例と全く同じである。第1の実施例との相違点は、発光強度変調用クロックパルスが1種類しかないことであって、この場合の発光強度変調用クロックパルス ϕ_1 は、第1の実施例での発光強度変調用クロックパルス $\phi_{1:1}$ 、 $\phi_{1:2}$ の波形を重ね合わせた波形となっている。本実施例においても、発光強度を増大させる発光素子の数により発光強度が制御される。また、発光状態の発光素子の数を増加させることも可能である。

【0033】なお、上述の第1及び第2の実施例においては、クロックラインの本数が2本の例を示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、クロックラインの本数を3本以上で実施することも可能である。また、以上の説明においては、クロックパルスはハイレベル及びローレベルの2相駆動型であったが、3相駆動型のクロックパルスにも適用できる。さらに各発光素子の結合部分はダイオードに限らず、トランジスタ、抵抗などの電気的結合手段であってもよい。さらに、本発明が適用できる発光素子アレイは、上述のような発光素子を一次元的に配列した発光素子アレイに限るものではなく、発光素子を二次元的または三次元的に配列した発光素子アレイであってもよい。

【0034】

【発明の効果】本発明により発光素子アレイを構成する各発光素子が長寿命化されるので、発光素子アレイを使用した機器の長期信頼性を増すことができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の発光素子アレイの駆動方法の第1の実施例を示す図。

【図2】図1(B)に示すクロックパルスを得るためのブロックダイアグラム。

【図3】本発明の発光素子アレイの駆動方法の第2の実施例を示す図。

【図4】特開平2-14584号において提案された発光素子アレイの駆動方法を示す図。

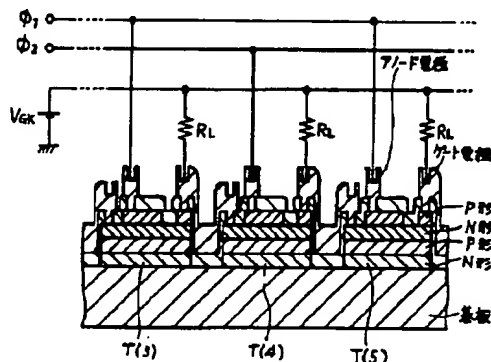
【図5】図4に示した発光素子アレイの部分断面構造概略図。

【図6】特開平1-238962号において提案された発光素子アレイの駆動方法を簡略化した駆動方法を示す図。

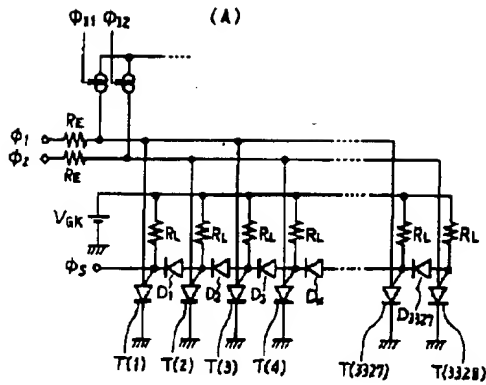
【符号の説明】

- T(1) 発光素子
- T(2) 発光素子
- T(3) 発光素子
- T(4) 発光素子
- T(5) 発光素子
- D₁ 結合用ダイオード
- D₂ 結合用ダイオード
- D₃ 結合用ダイオード
- D₄ 結合用ダイオード
- D₅ 結合用ダイオード
- ϕ_1 転送用クロックパルス
- ϕ_2 転送用クロックパルス
- $\phi_{1:1}$ 発光強度変調用クロックパルス
- $\phi_{1:2}$ 発光強度変調用クロックパルス
- ϕ_1 発光強度変調用クロックパルス
- ϕ_s スタートパルス

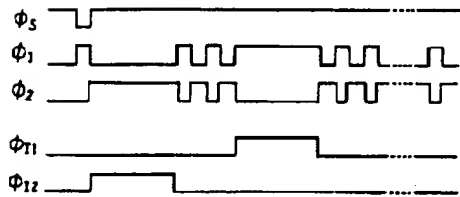
【図5】



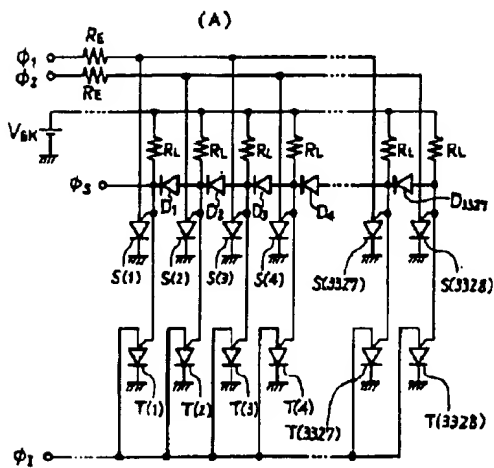
【图 1】



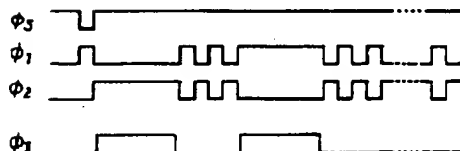
(B)



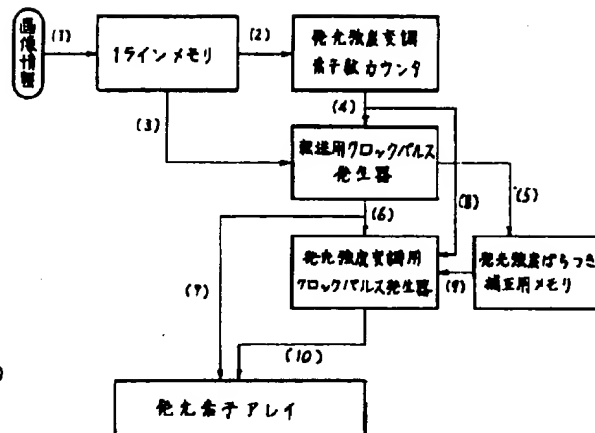
【圖 3】



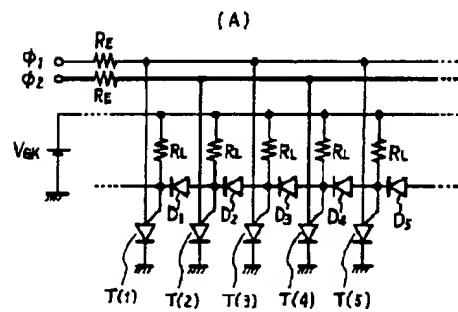
(B)



【図2】



【図4】



(B)

